

道の駅を核とした観光振興



清水 瀬菜 (しみず せな)

熊本県熊本市出身。幼いころから親しんだ北海道に魅せられ、2024年に石狩市厚田へ移住。地域おこし協力隊として道の駅を中心にイベント企画や魅力発信に取り組む。地域の温かさに支えられながら、「厚田らしさ」を広める活動が続けている。

【熊本からはるばる来たぜ北海道へ！】

私は熊本市で生まれ育ちましたが、幼いころから祖父母が北海道に住んでいたこともあり、長期休みには家族で北海道を訪れていました。雄大な自然や澄んだ空気に触れる時間は、私にとって特別でありながら、どこか身近に感じられるものでした。兄も北海道の大学に進学していたため、引っ越しの手伝いなどで訪れる機会も多く、北海道はずっと心に残る場所でした。社会人になってからは、プロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」の試合観戦がきっかけで、年に2、3回は北海道へ旅行するようになりました。何度も足を運ぶうちに、「こんなに好きなら、いっそ住んでみてもいいのでは」と思うようになり、移住を意識し始めました。

移住を考え始めた当初、石狩市を訪れたことはありませんでした。しかし、「おためし協力隊プログラム」で初めて厚田を訪れた際、地域の皆さんの温かさや、海と山を一度に感じられる景色に心を奪われました。

夕暮れの海の色、11月に降る雪、自然に声をかけてくださる距離の近さ。そのすべてが「ここで暮らす自分」を想像させてくれました。

実際に厚田に住み始めて感じたのは、“ちょうどいい田舎”であることです。空港や札幌から極端に遠いわけではなく、車で30～40分走れば必要なものは揃う。夜は静かで、時間がゆっくり流れる。熊本では少し忙しくしてしまっていた私にとって、この穏やかな時間はとても心地よく、自分に合っていると何度も感じました。地域の方々が気さくに声をかけてくださる温かさにも助けられています。厚田は、何が好きで何が苦手なのか、どんな生き方をしたいのかを考える“自分と向き合う時間”をたくさんくれる場所です。地域の方と話すたびに、「この地域なら、自分らしく過ごせる」と感じています。

【地域おこし協力隊って何？】

実は、地域おこし協力隊として転職・移住することを、最初から考えていたわけではありませんでした。前職の上司から「北海道に行くなら、地域おこし協力隊という制度もあるよ」と教えていただいたことがきっかけで、初めて制度について調べ始めました。

地域おこし協力隊の募集サイトを調べるなかで、石狩市厚田が「道の駅を核とした集客や業務に関わる協力隊」を募集していることを知りました。これまでの経験を活かしながら地域の役に立てるのではないかと感じ、迷いながらも申込期限ギリギリで応募を決めました。

【道の駅石狩「あいりーど厚田」で待ってます！】

私のミッションは、道の駅を中心とした集客や業務に関わることです。発注や納品対応、レジや電話対応などの窓口業務を行いながら、日々多くの方と接しています。



道の駅石狩「あいりーど厚田」外観

着任1年目は、さまざまなイベントや研修に参加させていただきました。私は主に道の駅の商品販売を担当していましたが、イベントの場所や来場者の層を考えて商品を選ぶ大切さを学びました。一方的に売るのではなく、「お客様が求めているものを届ける」という視点が必要だと強く感じました。また、道の駅でイベントを開催するなかで、道の駅にお客様を呼ぶことの難しさも実感しました。SNSでの発信だけでなく、地域の方から関係各所にしっかりと声をかけることが大事だということも学びました。

道の駅内での販売は、特に夏場は農家さんが次々と新鮮な野菜を届けてくださり、店内が一気に活気づきます。納品された野菜を手に取りながら、お客様の手元に届く瞬間を思い浮かべる時間が、私にとってとても好きなひとときです。



新鮮野菜などの販売

そのような経験を重ねるなかで、今年6月の「恋人の聖地の日」に合わせて、「厚田展望台恋人の聖地20周年記念 竹あかりライトアップイベント」を企画しました。厚田展望台は北海道で最初に恋人の聖地に認定された場所で、プロポーズや前撮りの思い出が残る特別な場所です。そこに、私の故郷・熊本で見てきた竹あかりをともしたい。そんな思いから始まったプロジェクトでしたが、道の駅の全面協力もあり、無事に開催することができました。クラウドファンディングも実施し、目標金額には届かなかったものの、多くの方から温かいご支援と応援の声をいただきました。

準備にあたっては、熊本の竹あかり制作団体「CHIKAKEN」とオンラインで何度も打ち合わせを重ね、厚田でどのような雰囲気をつくりたいか、展望台のどこにどのように配置するかを丁寧に共有しながら進めました。実際に現地で設置作業を行った際には、動線や安全面を最優先に考え、事前の設計から

大きく変更する場面もありました。何度も位置を調整しながら、より安心して楽しんでいただける形をつくってくださいました。

竹あかりに^{あかり}灯りがともった瞬間、竹あかりが厚田の空気にゆっくりと溶け込んでいくようで、会場全体が柔らかな光に包まれました。風に揺れる竹の影、灯りを見つめる子どもたちの表情、写真を撮る観光客の笑顔。その光景を見て、この場所に灯りをともせたことが心から^{うれ}嬉しくなりました。自分の故郷の文化が厚田の景色と重なり、新しい形で輝いた瞬間でした。

今後も、道の駅外での出店や、道の駅を活用したイベントを企画し、厚田を訪れるきっかけづくりを続けていきたいと考えています。道の駅だけで完結するのではなく、関係各所と連携しながら地域に根差したイベントをつくっていくことが大切だと感じています。

【2年目の私、1年後の自分】

着任して2年目となり、現在は「道の駅の来客増」を第一に考えて活動しています。石狩市内の各機関とも連携しながら、市内を周遊していただけるようなPRにも力を入れていきたいと考えています。

また、今年ご縁をつなぐことができた熊本の皆さんとも協力しながら、石狩市をさらに盛り上げていけるよう取り組んでいきたいと思っています。自分の故郷と厚田がつながっていくことに、大きな可能性と楽しさを感じています。

地域の方々ともたくさんお話をし、自分自身とも向き合いながら、地域おこし協力隊の卒業後を見据えて日々の活動に取り組んでいきたいと考えています。厚田での経験を積み重ねながら、「この地域で自分にできること」を丁寧に探していきたいです。



厚田展望台恋人の聖地20周年記念 竹あかりライトアップ